

64 水産物加工・流通対策

【1,075(513)百万円】

対策のポイント

水産物の川上（産地）から川下（消費地）までの流通の目詰まりを解消し、消費者ニーズに対応することで、国産水産物の流通促進と消費拡大を図ります。

<背景／課題>

- ・安全な水産物の安定供給のためには、水産加工・流通業の持続的な発展が求められています。
- ・水産物の消費量が急減（平成13年:40.2kg/人年⇒平成22年:29.5kg/人年）している状況の下、川上（産地）から川下（消費地）までの流通過程の各段階において、消費者の水産物ニーズに十分に答えきれていないことが課題となっています。

政策目標

魚介類（食用）の消費量

29.5kg/人年（平成22年度） → 29.5kg/人年（平成34年度）

※すう勢23.3kg/人年

<主な内容>

1. 国産水産物の流通促進を図る取組への支援 1,000(352)百万円

販売ニーズや産地情報等の共有化、流通過程の各段階への個別指導、HACCPに基づく品質管理の研修等を実施します。また、流通促進のための加工機器等の整備を支援するとともに、流通促進のための国産水産物の保管・運送経費の助成を行います。

国産水産物流通促進事業〔新規〕	780(―)百万円
国産水産物需給変動調整事業	220(352)百万円
補助率：定額、1/2以内	
事業実施主体：民間団体等	

2. 水産物流通情報発信・分析事業 75(87)百万円

全国の主要漁港における主要品目の水揚げ量、卸売価格等の動向に関する情報等の分析・発信を行います。

補助率：委託
委託先：民間団体等

[お問い合わせ先：水産庁加工流通課 (03-3502-8427(直))]

国産水産物流通促進事業

【平成25年度概算決定額780(一)百万円】

- 水産物の消費量が急減(H13: 40.2kg/人年→H22: 29.5kg/人年)している中、水産物流通の目詰まりを解消し、国産水産物の流通を促進することが急務。
- 国産水産物流通の、川上(産地)から川下(消費地)までを、ソフト・ハード両面で総合的に支援。

産地＝川上

無名の未利用小魚は毎日揚がるけど捨てるしかないなあ

漁協 加工業者
産地卸売業者 等

サバが大漁すぎて値崩れがするので困ったなあ

鮮魚



保管・運送

加工



川下のニーズにマッチ

した水産物の提供

川上と川下の流通目詰まり解消支援

情報共有、個別指導等

- ・販売ニーズや産地情報等の共有化
- ・流通のプロによる個別指導
- ・水産物の栄養成分等の知識普及のセミナー・研修
補助率: 定額、1/2以内

機器整備の支援

- ・流通促進の取組に必要な機器の購入経費を助成
補助率: 1/2以内

保管・運送経費の助成

- ・流通促進の取組に係る国産原魚の買取代金金利、保管経費、加工経費、運送経費等を助成
補助率: 1/2以内

消費地＝川下

地方の珍しい地魚を都会で買えたらなあ

消費者
小売業者 外食業者
給食業者 等

サバも浜で一次加工してくれれば、扱いやすいのに

定量・定時
簡便性 即食性
安全・安心
鮮度 健康



家庭・外食



さんま冷凍品



学校給食



鯨入りソーセージ